

病院概要

診療日：月～金

休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）

【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので御承知下さい。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめ、お電話（06-6879-2848）のうえ、お越しください。

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111

（時間外）06-6879-2848

入院患者様へのご面会時間は、12時から19時となっております。

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

病院へのアクセス （歯学部附属病院にお車でお越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。なお、平日夜 10 時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越しください）

<http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/jpn/access/index.html>



お知らせ

看護師
募集中！

お問い合わせ
歯学研究科
総務課人事
06-6879-2834
まで

NEWSLETTER

本号のテーマ：「血をサラサラにする薬をのんでいるのですが・・・」

この News Letter は、毎号お口に関する情報を提供させていただきます。みなさまのお口の健康に役立てください。なお、ニュースに対するご質問・ご意見は担当歯科医師・看護師・職員へお尋ねください。



明けましておめでとうございます。本年も安心・安全の歯科医療を提供することができるよう、努力を続けてまいります。どうかよろしくお願ひを申し上げます。昨年の12月、京都大学の中山伸弥教授がノーベル賞（医学・生理学賞）を受賞しました。将来、様々な再生医療への利用が期待されるiPS細胞を作り出すことに成功した業績が国際的に高い評価を受けた結果です。「科学の進歩が、未来を変えていく」との希望を感じさせるニュースに日本中が沸き立ちました。歯科治療の歴史を考えてみると、体に馴染む詰め物、金冠、入れ歯を患者様に提供することで、大切な歯や口の働きを守る努力をしてまいりました。さらに、新しい治療の選択肢としてインプラント治療に対する期待や理解も広まってきていると感じます。このような治療法に加えて、病気や事故などで失われた顎の骨や歯ぐきを元通りに再生させようとする治療法も開発されようとしています。また研究段階ではありますが、歯そのものを再生させようとする研究も行われています。21世紀の歯科医療では、もっと体に優しい高機能の材料が開発されてくることでしょう。さらに、材料に依存するだけではなく、再生医療で（いつかはiPS細胞を使って）歯や骨や歯ぐきを取り戻す治療が、もっと身近な存在になるでしょう。5年後、10年後の歯科治療に未来を変えていくように、今年も我々歯学部附属病院は頑張ってまいります。どうかご期待下さい。

副病院長 村上伸也

お口の相談コーナー：「血をサラサラにする薬をのんでいるのですが…」

最近、心臓病や脳卒中などの治療として、「血をサラサラにする薬」をのまれている患者様が増えています。この「血をサラサラにする薬」は抗血栓薬とよばれるもので、大きく分けて2種類あります。ひとつは抗血小板薬で、血を固める血小板という血液成分の働きを弱める作用があります。代表的なものに、アスピリン（バイアスピリン®、バファリン81mg錠®など）、チクロピジン塩酸塩（パナルジン®、チクピロン®など）、クロピドグレル硫酸塩（プラビックス®）があります。もうひとつは抗凝固薬で、これも血を固める凝固因子の働きを弱める作用があります。代表的なものに、ワルファリンカリウム（ワーファリン®）があります。

これら抗血栓薬をのまれている患者様では、以前は、抜歯などの出血を伴う歯科治療を行う際には、数日前からこれらの薬の服用を中断して、その薬効がなくなつてから処置を行っていました。ところが、ワルファリンを中止すると約1%の方に重篤な脳梗塞などの血栓塞栓症が生じ、麻痺などのために、日常生活の活動性が大幅に低下することが分かってきました。また、アスピリンを中断した場合も、服用を継続した場合に比べて脳梗塞が約34倍多く発生するとの報告もあります。

そこで、現在、日本では、これらの全身的合併症を防ぐために、抜歯などは、可能な限り抗血栓薬を中断することなく、通常量をのんだままで行つことが一般的になります。その時には必ず、止血材を用いたり縫合したり、場合によつては止血床（図1、図2参照）を装着したりする局所止血処置が欠かせません。まれには、数日後に処置後出血をきたすこともあります、止血処置により止血可能です。ただし、全身状態や薬の効き具合、処置の内容などによっては、別の管理法が必要な場合もありますので、担当医とご相談ください。

2011年～2012年にかけて、新しい抗凝固薬であるダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩（プラザキサ®）やリバーコキサバン（イグザレルト®）が発売されています。これらの薬剤と歯科治療に関しては、今後の検討課題といえます。

（歯科麻酔科 外来医長 森本佳成）



図1. 止血床の一例



図2. 右側下顎第一大臼歯抜歯後に止血床を装着した。

お口のマヌ知識：「障害児・者と全身麻酔による歯科治療」

障害のある人では、不随意運動のため身体を静止できなかつたり、極度に歯科治療が怖かったり、治療の目的が理解できないなどの理由から、通常の歯科治療を受けるのが困難なことがあります。そのような場合でも、より良い治療を行うための方法の一つとして、当院では全身麻酔法を用いた歯科治療を行っています。

全身麻酔は専門の歯科麻酔科医が担当します。全身麻酔で眠っているうちに治療を行うことで、患者さんは痛みや恐怖の全くない歯科治療を受けることができます。治療が終わると、中央病室で全身状態の回復を待ちます。病室では看護師とともに、安全に過ごしていただけるよう努めています。

全身麻酔での治療というと、入院・宿泊のイメージがあるかもしれません、本院では大多数は、当日の朝は少し早く来院していただき、夕方には帰宅していただける日帰り全身麻酔・歯科治療になっています。慣れない場所で長時間静かに過ごすことが難しい障害児・者には、特に有効と考えられます。しかし、全身の状態などによっては術前や術後に入院していただく場合もあります。全身麻酔に際しては、血液や心電図、X線検査、診察などが必要です。不安のある方には、それらを事前に見学していただくことも可能です。

障害のある人にも、最善の方法で歯科治療を提供したいと考えております。詳しいことは、担当医にご相談ください。

（障害者歯科治療部 部長 森崎市治郎
歯科麻酔科 科長 丹羽 均）

